

2024 年度 研究所事業報告書

研究所名	国際地域研究所
------	---------

I. 研究成果の概要（公開項目） ※1ページ以内にまとめること

本欄には、研究所の実施した全ての研究の成果について、その具体的内容、意義、重要性等を、項目立てなどを行い、できるだけわかりやすく記述してください。

なお、2024 年度に採択を受けた研究所重点研究プログラムの詳細な実績報告は、プロジェクト毎に書式 B に記述のうえ提出してください。

本研究所(国際地域研究所[以下 国地研])は、1989 年の設立以降、国際関係学と地域研究の両分野において、先端的な研究活動をリードすることで、国内外の学術コミュニティに貢献しようと努めてきた。2022 年度以降は、国地研、あるいは立命館大学全体として豊富に知的蓄積がなされてきた「平和研究」と「アジア研究」の強みを生かし、さらに伸ばすことで、国地研を「平和研究」及び「アジア研究」の重要な研究拠点として、国内外に打ち出すべく活動を進めている。具体的には、2 つの重点プロジェクトを国際展開の牽引役として位置づけ、国内外に国地研のプレゼンスを発揮させることに務めた。同時に 5 つの研究所内プロジェクトを設置し、重点研究でカバーしきれない重要な研究課題を支援した。

研究プロジェクト推進に当たっては、平和研究の「紛争・平和構築研究プロジェクト」と、アジア研究の「中国強国化プロジェクト」という二つの重点プロジェクトの連携強化・深化を意識した。両プロジェクトを連携させつつ進めてきた研究成果のうち、特筆すべきものとしては、Sino-Japan relations in the Indo-Pacific と題したシンポジウムを Australia National University で開催したこと、Jokowi's Decade と題したシンポジウムを本学で開催したこと、一帯一路に関する書籍の Australia National University Press からの刊行が決定したことなどがあげられる(2025年 6 月に刊行)。加えて、2022 年度より進めてきた University of East Anglia (UEA) との共同研究が具体的に進展し、2024 年度夏には UEA で第二回ワークショップを開催した。

若手による研究成果発信を促すためにも、研究所として、若手メンバーの研究指導にも力を入れた。若手研究者に対して、プロジェクトの研究会で報告をしたり、司会、討論を務める経験を積ませたりすることを意識し、上記シンポジウムや書籍などでも、若手メンバーを積極的に登壇、寄稿させた。特筆すべき成果としては、若手メンバーである Polina Ivanova 編集による *Refugees and asylum seekers in East Asia* (Palgrave Macmillan, 2024)の刊行がある。研究所としても、若手メンバーに対して積極的に共同で論文指導を行い、その結果、若手メンバーの研究成果が本書以外にも国際ジャーナルでも複数公刊されるなどした。加えて、若手研究者の研究会運営能力の向上、或いはネットワーキング支援も兼ねて、若手研究会の運営を任せ、若手メンバー企画運営による研究会が 3 回開催された。

なお、国地研の 2024 年度の主要な成果は以下の通りである。重点プロジェクトの「紛争・平和構築研究」では、新型コロナウイルス蔓延が、人々の平和と安全や紛争に与える影響、国際人口移動に与える影響を中心に研究し、その成果は、20 回の研究会・シンポジウムなどの開催、土曜講座主催に加え、図書出版 11 点、論文 36 本、学会発表 49 回、メディア掲載や講演 74 回として発信した。同じく重点プロジェクトの「中国強国化と国際秩序」では、2 回のシンポジウム主催、図書出版 5 点、論文 26 本、学会発表 18 回、メディア掲載や講演 5 回であった。研究所内プロジェクトは、「日米中政治経済研究会」、「中国法・アジア法研究会」、「アフリカ研究会」、「平和主義研究会」「実験政治学研究会」が、それぞれ積極的な研究活動を行った。所内プロジェクトの研究成果のうち特筆すべきものとしては、「中国法・アジア法研究会」が 2023 年度に開催したシンポジウムをもとにした「AI 技術の応用と法的課題」と題した特集を、本研究所紀要で組み高い評価を得たことがある。重点プロジェクト、他の所内プロジェクトでも、AI 技術が国際平和、各地域情勢に与える影響に関する研究会、シンポジウムを開催しており、本研究所の重要な研究テーマの一つとなりつつある。その他、研究成果については、多岐にわたるのでここには記載しないが、以下の研究業績一覧を参照していただければ幸いである。

総合的に、研究成果については 5 カ年計画と照らしても順調に進捗した。また、そうした成果を生かしながら、プロジェクトメンバーを代表とする大型科研費(基盤 A)も 2 件獲得し研究推進中で、加えて2024年度には新たに国際共同研究加速基金の獲得や、英国大使館からの受託研究獲得にも成功した。研究所の研究活動を充実させるとともに、これら成果を踏まえ、さらなる外部資金獲得につなげていけるよう 2025 年度も研究活動を進めていく。

Ⅱ. 拠点構成員の一覧（公開項目）※ページ数の制限は無し

本欄には、2025 年 3 月 31 日時点で各拠点にて所属が確認されている本学教員や若手研究者・非常勤講師・客員協力研究員等の構成員を全て記載してください。区分が重複する場合は二重に記入せず、役割が上にあるものから優先し全て記載してください。また、若手研究者の条件に当てはまる場合は、若手研究者欄に記載をしてください。

※若手研究者とは、立命館大学に在籍する以下の職位の者と定義します。

①専門研究員・研究員、②補助研究員・RA、③大学院生、④日本学術振興会特別研究員 (PD・RPD)

役割	氏名	所属	職位
研究所長	足立 研幾	国際関係学部	教授
運営委員	中本 悟	経済学部	教授
	白戸 圭一	国際関係学部	教授
	本名 純	国際関係学部	教授
	中川 涼司	国際関係学部	教授
	宮脇 昇	政策科学部	教授
	守 政毅	経営学部	教授
	小田 美佐子	法学部	教授
	廣野 美和	グローバル教養学部	教授
	嶋田 晴行	国際関係学部	教授
学内教員 (専任教員、研究系教員等)	末近 浩太	国際関係学部	教授
	君島 東彦	国際関係学部	教授
	岩田 拓夫	国際関係学部	教授
	中戸 祐夫	国際関係学部	教授
	松田 正彦	国際関係学部	教授
	石川 幸子	国際関係学部	教授
	鳥山 純子	国際関係学部	教授
	安高 啓朗	国際関係学部	教授
	福海 さやか	国際関係学部	准教授
	Thomas French	国際関係学部	准教授
	小林 主茂	国際関係学部	准教授
	辻本 登志子	国際関係学部	准教授
	板木雅彦	国際関係学部	教授
	何 格尔	経営学部	准教授
	張 卓	経営学部	講師
	池端 路子	衣笠総合研究機構	准教授
	渡邊松男	国際関係学部	教授
	角本和理	政策科学部	准教授
	村上 剛	法学部	教授
	谷遼大	法学部	准教授
	田中悠美子	法学部	准教授
	山田希	法学部	教授
	樋爪誠	法学部	教授
	安達光治	法学部	教授

		望月 爾	法学部	教授
学内の若手研究者	① 専門研究員 研究員 初任研究員	Polina Ivanova	アジア日本研究所	専門研究員
		Yusy Widrahesty	アジア日本研究所	専門研究員
		玉井 良尚	R-GIRO	助教
		Trissia Wijaya	立命館アジア・日本研究機構	専門研究員
	② リサーチアシスタント	Daichi Morishige	国際関係研究科	博士課程後期課程
	③ 大学院生	Merideth Cazalas	国際関係研究科	博士課程前期課程
		Dzhudzhev Radoslav Zapryanov	国際関係研究科	博士課程前期課程
		呂誠 ゆう	国際関係研究科	博士課程前期課程
		LIM Chhay	国際関係研究科	博士課程前期課程
		江種 黎至	国際関係研究科	博士課程前期課程
		Francesc Esquerdo	国際関係研究科	博士課程前期課程
		史何	国際関係研究科	博士課程前期課程
		SOK Panha	国際関係研究科	博士課程前期課程
		Ernis Jumamudun Uulu	国際関係研究科	博士課程前期課程
		Sophany Pech	国際関係研究科	博士課程前期課程
		Radesa Budipramono	国際関係研究科	博士課程後期課程
		Khairul Hasni	国際関係研究科	博士課程後期課程
		米田 優作	国際関係研究科	博士課程後期課程
		Agnes Siwi	国際関係研究科	博士課程後期課程
		Chaula R. Anindya	国際関係研究科	博士課程後期課程
		Dharma Agastia	国際関係研究科	博士課程後期課程
		Taha Acar	国際関係研究科	博士課程後期課程
		Merve OZTURK ASIL	国際関係研究科	博士課程後期課程
		PAN Qiyue	国際関係研究科	博士課程前期課程
		賀玉潔(HE Yujie)	国際関係研究科	博士課程前期課程
		高芸菡(GAO Yihan)	国際関係研究科	博士課程前期課程
		竺英傑(ZHU Yingjie)	国際関係研究科	博士課程前期課程
		吉村 拓人	政策科学研究科	博士課程後期課程
		李博(Li Bo)	経営学研究科	博士課程前期課程
		Mina Tadrous	国際関係研究科	博士課程後期課程
		Peter Ang	国際関係研究科	博士課程後期課程
		Lwin Cho Latt	国際関係研究科	博士課程後期課程
		Grace Donaldson	国際関係研究科	博士課程後期課程
		成虹波(CHENG Hongbo)	国際関係研究科	博士課程後期課程
		任泰然(REN Tairan)	国際関係研究科	博士課程後期課程
		田中裕大	国際関係研究科	博士課程前期課程
		野上淳平	国際関係研究科	博士課程前期課程

		MENSAH Michael Adjetey	国際関係研究科	博士課程前期課程
		XIA Mengyang	法学研究科	博士課程前期課程
		BAI Linxin	法学研究科	博士課程前期課程
		小倉美月	法学研究科	博士課程前期課程
		MAO Yijun	法学研究科	博士課程前期課程
		DING Zhe	法学研究科	博士課程後期課程
		波床貴明	経済学研究科	博士課程後期課程
		Xiong Lei	経済学研究科	博士課程前期課程
		Gui Linnan (携林楠)	立命館大学大学院経済学研究科	博士課程後期課程
		生田大輝	立命館大学大学院経済学研究科	博士課程前期課程
		松尾 菜生	国際関係研究科	博士課程前期課程
	④ 日本学術振興会特別研究員 (PD・RPD)			
その他の学内者 (補助研究員、非常勤講師、研究生、研修生等)	Andrei Yamamoto	国際関係学部	授業担当講師	
	森下 明子	国際関係学部	授業担当講師	
	山田 翔太	国際関係学部	授業担当講師	
客員協力研究員	岡野 英之	近畿大学	准教授	
	佐々木 葉月	金沢大学	講師	
	玉井 雅隆	東北公益文科大学	教授	
	魏聰哲	中華経済研究院	副研究員	
	潘燕萍	深圳大学管理学院	副研究員	
	楊秋麗	京都橘大学	准教授	
	韓金江	岐阜協立大学	教授	
	南玉瓊	お茶の水女子大学	アソシエイトフェロー	
	畢麗傑	中京大学	職員	
	近藤 信一	岩手県立大学	准教授	
その他の学外者	Adhi Priamarizki	Nanyang Technological University	客員教授	
	Agus Trihartono	Jember University	講師	
	Amitav Acharya	American University	教授	
	Lam Peng Er	National University of Singapore	教授	
	Mely Cabellero Anthony	Nanyang Technological University	教授	
	Shofwan Al Bana Choiruzzad	University of Indonesia	講師	
	Ukrist Pasmanand	Chulalongkorn University	教授	
	Sugit S. Arjon	宇都宮大学	助教	
	吉川 元	広島平和研究所	特別任用教授	
	村上 友章	流通科学大学	准教授	
	長 有紀枝	立教大学	教授	

	坪内 淳	聖心女子大学	教授
	白石 隆	政策研究大学院大学	名誉教授
	円城 由美子	大阪女学院大学	准教授
	高須 幸雄	国際連合	事務総長特別顧問
	David Envall	オーストラリア国立大学	准教授
	Thomas Wilkins	シドニー大学	准教授
	Nikolay Murashkin	オーストラリア国立大学	講師
	劉曉梅	東北財經大学	教授
	徐林卉	上海社会科学院	副研究員
	楊鵬超	鄭州大学	副研究員
	中根 研一	北海学園大学	教授
	藤田 美季	東京大学	博士課程後期課程
	林来梵	清華大学	教授
	俞祺	北京大学	副教授
	曹志勛	北京大学	副教授
	丁相順	中国人民大学	教授
	孫笑俠	浙江大学	教授
	陸青	浙江大学	教授
	章程	浙江大学	副教授
	陳聰富	台湾大学	講座教授
	詹森林	政治大学	講座教授
	黃詩淳	台湾大学	教授
	顏佑紘	台湾大学	副教授
	張譯文	台湾大学	助理教授
	中川丈久	神戸大学	教授
	朱曄	静岡大学	教授
	尾藤司	静岡大学	講師
	日原拓哉	大阪大学	特任助教(常勤)
	朱省志	広東技術師範大学	講師
	張挺	杭州師範大学	副教授
	徐文海	華東師範大学	副教授
	向秦	華東政法大学	副研究員
	安岡邦弘	同志社大学	嘱託研究員
	井出文紀	近畿大学	准教授
	小山大介	京都橘大学	准教授
	松村博行	駒澤大学	教授
	井上 博	阪南大学	教授

	森原康仁	専修大学	教授
	櫻井公人	立教大学	教授
	田村太一	大阪経済大学	教授
	千葉 典	神戸市外国語大学	教授
	近藤信一	岩手県立大学	准教授
	渡邊英俊	島根大学	教授
	田村あずみ	滋賀大学	准教授
	山根和代	国際地域研究所	客員協力研究員
	野島大輔	国際地域研究所	客員協力研究員
	藤田明史	国際地域研究所	客員協力研究員
	本山央子	お茶の水女子大学	特任リサーチフェロー
	Polina Ivanova	国際地域研究所	客員協力研究員
	Nicholas A. R. Fraser	Toronto Metropolitan University's Canada Excellence Research Chair (CERC) in Migration and Integration	Senior Research Associate
	中野克彦	国際関係学部	非常勤講師
	シン・ヒョンオ	国際関係学部	授業担当講師
	Yusy Widarahesty	アジア・日本研究所	客員協力研究員
	安斎拓真	中央大学	博士課程後期課程
研究所構成員 計 161 名 (うち学内の若手研究者 計 48 名)			

Ⅲ. 研究業績（公開項目） ※ページ数の制限は無し ※to be published,の状態の業績は記載しないで下さい。

本欄には、「Ⅱ. 拠点構成員の一覧」に記載した研究者の研究業績のうち、拠点に関わる研究業績を全て記載してください。(2025 年 3 月 31 日時点)
また、書式 B の研究業績欄との二重記載をお願いいたします。

1. 著書							
No.	氏名	著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行年月	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	その他編者・著者名	担当頁数
1	君島東彦	平和のアジェンダを再設定する	単著	2024 年 7 月	地平社、『戦争ではなく平和の準備を』	川崎哲、青井末帆	pp.189-205
2	Polina Ivanova	<i>Refugees and asylum seekers in East Asia: Perspectives from Japan and Taiwan</i>	共著	2024 年	Palgrave Macmillan	Lara Momesso	編者、pp. 1-25, pp. 389-399
3	Yusy Widarahesty	Asylum Seeking as Survival Strategy: The Narratives of Indonesian Work Seekers in Japan	共著・章	2024 年	Palgrave Macmillan	Firman Budianto, In L. Momesso and P. Ivanova (eds.), <i>Refugees and asylum seekers in East Asia</i>	pp. 365-388
4	足立研幾	グローバルな規範の受容と拒絶のはざままで―「人間の安全保障」規範をめぐる剪定、育種、寄生	単著・章	2025 年 3 月	ナカニシヤ出版	阿部利洋[編]『グローバル正義の変容』	pp. 79-98

5	Kenki Adachi	The Resurgence of Human Security in Japan's Foreign Policy	単著・章	2024 年	MHM Limited	Tosh Minohara [編] <i>Handbook of Japan's Foreign and Domestic Policies During the Decade of Abe</i>	pp. 245-260
6	足立研幾	ロシア・ウクライナ戦争は武力紛争ガバナンスを崩壊に向かわせるのか?	単著・章	2024 年	芦書房	中村登志哉、他[編]『ウクライナ戦争とグローバルガバナンス』	pp. 193-202
7	小山大介	『人間復興の経済学』『地域経済のグローバル化と公共調達制度ー地域・中小企業と公共調達に新たな在り方を探るー』	分 担 執 筆	2024 年 12 月	自治体研究社	岡田知弘・岩佐和幸 編著	pp.355-371
8	中川涼司	「ゴジラと Godzillaー日米並行制作体制の行方ー」	単著	2025 年 3 月 31 日	大阪大学出版会	池田淑子編著『ゴジラは自然の逆襲か? 』	pp.136-156
9	渡邊英俊	人間復興の地域経済学	共著	2024 年 12 月	自治体研究社	岡田知弘・岩佐和幸 編著	pp. 296-314
10	井上 博	コンビニエンスストアと日本の流通	共著	2024 年 4 月	文理閣	加賀美・佐久間・森脇 編著	pp.157-179
11	森原康仁	パンデミックが映し出す経済と社会	共著	2025 年 3 月	専修大学出版局	徐一睿・宮寄晃臣編	pp. 59-77
12	白戸圭一	アフリカ諸国の動向と日本の役割	単著	2025 年 1 月 10 日	一般財団法人国際経済交流財団 国際経済政策シリーズ第 5 巻	北岡伸一編	pp.181-189
13	白戸圭一	アフリカの武力紛争・腐敗と政治	単著	2025 年 1 月 20 日	アフリカ経済開発論	高橋基樹[ほか]編	pp.281-300
14	足立研幾	『ウクライナ戦争とグローバル・ガバナンス』	共著	2024 年	葦書房	グローバル・ガバナンス学会編	pp. 193ー202
15	Kenki Adachi	Handbook of Japan's Foreign and Domestic Policies During the Decade of Abe	共著	2024	MHM Limited	Tosh Minohara ed.	pp. 245-260
16	足立研幾	『グローバル正義の変容』	共著	2025	ナカニシヤ出版	阿部利洋編	pp. 79-98
17	本名純	紛争後社会と和解：ボスニアにおける国家建設	共著	2024	晃洋書房	月村太郎編	pp. 93-117
18	本名純	比較政治学事典	共著	2025	丸善出版	日本比較政治学会編	pp. 466-7, pp. 580-582
19	Polina Ivanova	Refugees and asylum seekers in East Asia: Perspectives from Japan and Taiwan, Palgrave Macmillan Studies on Human Rights in Asia	編著	2024	Palgrave Macmillan	Yusy Widrahesty	pp. 1-25 (Polina), pp. 365-288(Yusy), pp.389-399(Polina)
20	白戸圭一	アフリカ経済開発論	共著	2025	ミネルヴァ書房	高橋基樹、福西隆弘、山崎泉、井手上和代、松原加奈 編	pp.281-300
21	白戸圭一	ポストウクライナにおける新国際秩序 グローバル・ミドルパワーとしての日本の役割		2025	般財団法人国際経済交流財団、国際経済政策シリーズ第 5 巻		pp.181-189
22	末近浩太	『中東を学ぶ人のために』	編著	2024 年 6 月	世界思想社	松尾昌樹	p.304.
23	鳥山純子	「第 8 章 家族関係から考える、講義の『一月二十五日革命』」	分 担 執 筆	2024 年 7 月	『「アラブの春」のアクチュアリティ エジプト一月二十五日革命を中心にみるグローバリゼーション下の日常的抵抗』山川出版社、371p.	大穂哲也編	pp.216-234
24	Junko Toriyama	“ Neo-Patriarchy or Ultimate Love?: Thinking mommy's boy culture in	分 担 執 筆	2025 年 1 月	<i>Tamo #1</i> Rabat, Morocco: Kulte Editions, 2024, 152p.	Naji, Yasmina (Ed.)	pp. 50-75

		Morocco”					
25	廣野美和	第9章 グローバルガバナンスに関わる中国の関連構想と行動	共著	2024年5月	21世紀政策研究所 研究プロジェクト『習近平政権三期目の目標と課題—強さと脆さ—』	川島真 小嶋華津子、 寶劔久俊 鈴木隆 梶谷懐 丁可 岡崙久実子、山口信治 益尾知佐子、廣野美和	pp. 175-192
26	中川涼司	ゴジラと Godzilla—日米並行制作体制の行方」2025年	単著	2025年3月	池田淑子編著『ゴジラは自然の逆襲か？—Global Monsters Beckoning the Future』大阪大学出版会、		pp. 128-156
27	魏聰哲	日本經濟成長政策的轉變與啟示	単著	2025年3月	謝文生編『從昭和到令和：如何理解當代日本的轉變』允晨文化出版社		pp. 381-411
28	魏聰哲	經濟安全保障與臺灣太空產業之發展	単著	2025年1月	彭素玲主編『2025年全球經濟展望—全球局勢風雲起經濟安全優先』、中華經濟研究院		
29	南玉瓊	日本語訳・中国学術論文 中国学术日译	共訳	2024年6月	日本・芳草社	賀樹紅，曲曉燕，周倩，李翔，石田曜，楊超，宋煒，田嫻，李娜，孔風蘭，張偉霞	pp. 152-169

2. 論文								
No.	氏名	著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行年月	発行所、発表雑誌、巻・号数	その他編者・著者名	担当頁数	査読有無
1	小田美佐子	AI 技術の応用と法的課題	単著	2024年10月	立命館国際地域研究 59 号		pp. 1-2	無
2	小田美佐子	AI カメラの利用と民事責任: 中国における裁判例等を踏まえて	単著	2024年10月	立命館国際地域研究 59 号		pp. 33-47	無
3	小田美佐子	台湾民法における契約違反に対する救済方法の改正	単著	2025年2月	中国関係論説資料 65 号第 4 分冊	陳聰富	pp. 758-768	有
4	小田美佐子	履行期前の履行拒絶と不安の抗弁権	単著	2025年2月	中国関係論説資料 65 号第 4 分冊		pp. 775-781	有
5	小田美佐子	顔情報の取扱をめぐる民事裁判の法源	単著	2025年2月	中国関係論説資料 65 号第 4 分冊		pp. 782-798	有
6	角本和理	生成 AI の技術革新にともなう法整備の課題: 民事上の能力制度に焦点を当てて	単著	2024年10月	立命館国際地域研究 59 号		pp. 13-32	無
7	朱曄	AI 時代におけるデータ信託の枠組みの重要性: プラットフォームへの規制方策を踏えて	単著	2024年10月	立命館国際地域研究 59 号		pp. 49-62	無
8	朱曄	AI 時代におけるパーソナルデータの法的性質	単著	2024年10月	静岡大学法政研究 28 巻 2・3・4 号		pp. 65-98	無
9	君島東彦	ポスト3.11 の日本における平和問題	単著	2024年9月	中国社会科学学院日本研究所『日本学刊』2024 年第5号		pp.19-26	有

10	藤田明史	「ガルトゥング平和学の現代的意義について——現代において戦争は暴力か」 (この表題の論稿、ガルトゥング『平和の理論』の部分訳、およびガルトゥング主要文献一覧から成る)	単著	2025年 3月	立命館平和研究—立命館大学国際平和ミュージアム紀要—第26号		pp. 9-33	有
11	本山央子	「新しい戦争の時代における軍事主義とフェミニズム」	単著	2024年 11月	『エトセトラ』 Vol.22		PP. 6-11	無
12	野島大輔	「平和と人権、国際理解、協力、基本的自由、グローバル・シティズンシップおよび持続可能な開発のための教育に関する勧告」【暫定訳(修正版)】の作成	共訳	2025年 3月	日本国際理解教育学会(学会HPに2025年3月掲載、2025年度学会誌に掲載予定)	嶺井明子他、学会員有志27名による共同研究	注記3・5・11・15執筆の他、全文にわたり国際関係学の立場からの助言・校正を担当	無 (共同研究)
13	村上剛	日本における移民・外国人受け入れについて尋ねた世論調査	単著	2025年	立命館法学 416号		pp. 77-97	無
14	Polina Ivanova	International students' loneliness and social engagement: Narratives from the United States and Japan	単著	2025年	<i>Journal of International Students</i> 15(4)	Yi Sun, Wendan Li, and Krishna Bista	pp. 1-20	有
15	Yusy Wildarahesty	Diversity in the Workplace": Indonesian Muslim Migrant Workers' Experiences in Japan	単著	2024年	<i>Global Strategis</i> 18(2)		pp. 355-382	有
16	Nicholas A. R. Fraser	Categorical Inequalities and Canadian Attitudes toward Positive and Negative Rights	共著	2024年	<i>Canadian Journal of Political Science</i> 57(2)	Irene Bloemraad and Allison Harell	pp. 231-253	有
17	Nicholas A. R. Fraser	Put Your Money Where Your Mouth Is: Willingness to Pay for Online Conspiracy Theory Content	共著	2024年	<i>Telematics and Informatics Reports</i> 14	John W. Cheng, Masaru Nishikawa, and Ikuma Ogura	pp. 100-141	有
18	Kenki Adachi	Securitisation, Scapegoat, Identity Politics: Why Did President Duterte Mark Record-High Approval Ratings Despite His Failure to Combat the	単著	2024年	<i>Journal of Current Southeast Asian Affairs</i> 44(1)		pp. 55-71	有

		COVID-19 Pandemic?						
19	Kenki Adachi	The undersecuritization of COVID-19 in Japan: Voluntary behavioral change as self-defense?	単 著	2024 年	<i>Security Dialogue</i> 55(3)		pp. 257-273	有
20	足立研幾	安全保障化、人身 御供、アイデンティ ティ政治—コロナ対 策に失敗したドゥッテ ルテ大統領がなぜ 過去最高の支持率 を記録したのか？	単 著	2024 年	立命館国際研 究 36 巻 4 号		pp. 19-35	無
21	小山大介	中小企業の外部経 済環境と景況調査 —コロナ前・コロナ 禍・コロナ後の景気 動向を診る—	単 著	2024 年 12 月	中小企業家同 友会全国協議 会・企業環境 研 究 セ ン タ ー、『企業環境 研究年報』第 29 号		pp.35-52	有
22	小山大介	「能登半島地震、被 災地の復旧・復興を めざして—課題とあ るべき方向性—」	単 著	2025 年 1 月	自治労連・地 方自治問題研 究機構『デジタ ル自治と分権』 第 2 号		pp.13-19	無
23	中川涼司	Economic Security Policy of the US and China, and the Response of Japan: Avoidance of the Thucydides Trap of Economic security	単 著	2025 年 3 月 19 日	立命館大学国 際 関 係 学 会 『立命館国際 研究』第 37 巻 第 4 号		pp.19-33	無
24	渡邊英俊	食料安全保障をめ ぐる国際社会の動 向と日米の政策展 開について	単 著	2025 年 3 月	経 済 科 学 論 集、第 51 号		pp. 23-40	無
25	森原康仁	「エコノミック・ステ イトクラフト」とは何か ——「分断」時代の 世界経済	単 著	2024 年 8 月	『経済』第 347 号		pp. 122-133	無
26	森原康仁	「制度化のための努 力」とSDGs	単 著	2024 年 10 月	『教育』第 945 号		pp. 67-73	無
27	森原康仁	急激な円安と「日本 経済の実力」	単 著	2024 年 12 月	『経済科学通 信』第 160 号		pp. 6-10	無
28	森原康仁	国債バブル・インフ レ・地政学的緊張— —株価高騰と「資産 運用立国」の背景	単 著	2024 年 12 月	『月刊東京』第 459 号		pp. 2-10	無
29	Kenki Adachi	“Under- securitization of COVID-19 in Japan: Voluntary Behavioral Change as Self- defense?”	単 著	2024 年 4 月	Security Dialogue, 55(3)		pp.257-273	有
30	Keiichi Shirato	“Japan’s Strategic Interests in the Global South (Africa),”	単 著	2024 年 5 月	Strategic Japan(2024) Japan and the Global South、May 21, Center for		Online(ページなし)	無

					Strategic and International Studies (CSIS)			
31	Chaula Rininta Anindya	“Securitisation, National Action Plan, and Law on Terrorism in Indonesia and the Philippines: Questioning Comprehensive Approach”	単著	2024年	Global: Jurnal Politik Internasional Vol. 26, No. 1,		Online (ページなし)	有
32	本名純	インドネシアーインドネシアの今とこれからー	単著	2024年	「アジアの「民主主義」、NIRA 総合研究開発機構			
33	白戸圭一	南ア与党 ANC 初の過半数割れ 分裂で票分散 民主化から 30 年」	単著	2024年8月	『共同 Weekly』第32 巻 35 号 共同通信社		pp.4-7	無
34	白戸圭一	「南アフリカの行方：ANC 初の過半数割れ」	単著	2024年8月	『世界経済評論 2024 年 9・10 月号』68 巻 5 号		pp.98-106	無
35	白戸圭一	「南アフリカ総選挙 与党 ANC 敗北の政治的影響」	単著	2024年7月	『外交 2024 年 7・8 月号』86 巻		pp.106-111	無
36	白戸圭一	「グローバルサウスとしてのアフリカ」	単著	2024年4月	月刊アフリカ 2024 年夏号』64 巻 1 号、		pp.30-35	無
37	Kenki Adachi	“Securitization, Scapegoat, Identity Politics: Why Did President Duterte Mark Record-high Approval Ratings Despite His Failure to Combat the COVID-19 Pandemic?”	単著	2025年1月	Journal of Current Southeast Asian Affairs, 44(1)		pp.55-71	有
38	Toshiko Tsujimoto	"Deterring the Right to Justice: Structural Coercion and the Trafficking of Filipino Female Entertainers in South Korea."	単著	2025年	Pacific Affairs 98(2)		Online first	有
39	本名純	アジアの民主主義 第6章:インドネシア	単著	2024年5月	NIRA 研究報告書		pp.1-14	無
40	本名純	2024 年インドネシア大統領選挙: プラボウォはいかに勝利したか	単著	2024年6月	国際地域研究所・国際情勢解説 (2024 No.1)		pp.1-6	無
41	本名純	プラボウォ政権への移行期政治	単著	2024年7月	IDE スクエア		pp.1-10	無
42	Jun Honna	2024 Indonesian Presidential Election: How Prabowo Won	単著	2024	Asia-Pacific Review, 31:2, Summer 2024		pp.105-116	無
43	Jun Honna	Indonesia's Diplomacy to	単著	August 2024	Roles Review Vol.5		pp.64-69	無

		North Korea: Changes and Continuities						
44	本名純	プラボウォ政権下のインドネシア: 持続的発展か民主主義の空洞化か	単著	2025年3月	日本経済研究センター『インド太平洋の比較体制: 民主主義と権威主義のせめぎ合い』			無
45	本名純	インドネシアから見たウクライナとガザ: プラボウォ新政権の外交力学	単著	2025年3月	外交		pp.78-83	無
46	Noboru Miyawaki	"Mongolia depended more on two neighbours,"	単著	2025年3月	『政策科学』、32号			無
47	Yusy Widarahesty,	"Diversity in the Workplace": Indonesian Muslim Migrant Workers' Experiences in Japan	単著	2024年	Global Strategies Journal, October 10th			有
48	村上剛	「日本における移民・外国人受け入れについて尋ねた世論調査」	単著	2024年	立命館法学(416号、2024年4号)		pp.77-97	無
49	松田正彦	「東南アジア農村における生業構造の簡易推計に向けた生計多様度指数の標準化」	共著	2024年	『熱帯農業研究』17(2)	富田晋介、広田勲、山本宗立	pp.51-60	有
50	Kazushige Kobayashi	'(Re) Setting the Boundaries of Peacebuilding in a Changing Global Order'	共著	2025年2月	Contemporary Security Policy, Vol.46, No.2	Keith Krause and Xinyu Yuan	PP.226-252	有
51	Kota Suechika	Measuring the Evolution of Arab States' Perceptions of the Iranian Threat: A Quantitative Text Analysis of Major Arabic-Language State Media, 2010–20,"	共著	2024年5月	"British Journal of Middle Eastern Studies," Vol.51, no.3	Dai Yamao	http://dx.doi.org/10.1080/13530194.2024.2345882	有
52	Kota Suechika	"Hezbollah's Communication Strategies in Consociational Democracy: A Quantitative Text Analysis of Al-Manar"	単著	March, 2025	Nationalism and Ethnic Politics		http://dx.doi.org/10.1080/13537113.2025.2472488	有
53	末近浩太	「中東に横行する権威主義: 民主化は進むのか」	単著	2024年6月	『Voice』, 7月号, 通巻559号		pp.136-143	無
54	末近浩太	「レバノン侵攻と「対テロ戦争」の論理」	単著	2024年11月	『地平』12月号		pp.50-53	無
55	末近浩太	「岐路に立たされるヒズボラと「抵抗の枢軸」	単著	2024年12月	『外交』Vol. 88, 2025年1/2月号		pp.60-65	無

56	末近浩太	「シリア・アサド政権の崩壊:シリア再建に立ちはだかる四つの問題」	単著	2025年1月	『世界』No.990 2025年2月号		pp.99-103	無
57	末近浩太	「文明の衝突」	単著	2025年1月	日本比較政治学会編『比較政治学事典』丸善出版		pp.156-157	無
58	末近浩太	「イスラーム政党」	単著	2025年1月	日本比較政治学会編『比較政治学事典』丸善出版		pp.304-305	無
59	末近浩太	「紛争と非国家主体」	単著	2025年1月	日本比較政治学会編『比較政治学事典』丸善出版		pp.468-469	無
60	嶋田晴行	「カナダへ渡ったアフガニスタン移民:2019-2020年と2023年の調査結果から」	単著	2024年	『立命館国際研究』第37巻第2号		pp.1-15	無
61	Haruyuki Shimada	“Aid paradox for unrecognized governments: The Taliban and aid,”	単著	March, 2025	<i>Development Policy Review</i> , Overseas Development Institute, Vol.43, No.3		web edition	有
62	鳥山純子	「書評 クォンキム・ヒョンヨン編『被害と加害のフェミニズム: #Me Too 以降を展望する』」	単著	2024年8月	『立命館アジア・日本研究学術年報』第5号		pp.176-180	無
63	池端路子	「ガザ危機が揺るがすヨルダンの安全保障:2023年10月7日以降のパレスチナ問題対応」	単著	2024年9月	『中東研究』第551号		pp.32-43	無
64	廣野美和	Local Knowledge As the Basis Of Disaster Management and Humanitarian Assistance	共著	2024年6月	Disasters, vol 48, issue S1	Muhammad Riza Nurdin	pp. 12	有
65	廣野美和	Diasporas as a Linchpin in Local And International Humanitarian Action: A Case Study of the Chinese in Aceh following the 2004 Tsunami	単著	2024年6月	Disasters, vol 48, issue S1		pp. 14	有
66	廣野美和	Quantifying Social Capital Creation in Post-	共著	2024年6月	Disasters, vol 48, issue S1	Daniel Moritz Marutschke	pp. 24	有

		Disaster Recovery Aid in Indonesia: Methodological Innovation by an AI-based Language Model				, Muhamma d Riza Nurdin		
67	廣野美和	Indo-Pacific Minilateralism and Strategic Competition (I): Australia/Japan and Chinese Approaches Compared	共 著	2024 年 6 月	East-West Center	Thomas S. Wilkins, H.D.P Envall, Kyoko Hatakeyama	pp. 19	無
68	廣野美和	Japan/Australia Minilateralism in the Indo-Pacific (II): Advancing Cooperation in Orderbuilding and Geoeconomics	共 著	2024 年 6 月	East-West Center	Thomas S. Wilkins, H.D.P Envall, Kyoko Hatakeyama	pp. 19	無
69	中川涼司	【書評】李 春利 編著『不確実性の世界と現代中国』（日本評論社、2022 年 9 月）	単 著	202 4 年 10 月	『中国経済経営研究』第 8 卷第 2 号		pp. 80-85	無
70	NAKAGAWA Ryoji	Economic Security Policy of US and China, and the Response of Japan: Avoidance of the Thucydides Trap of Economic Security	単 著	2025 年 3 月	『立命館国際研究』第 37 巻第 4 号		pp. 1-16	無
71	任泰然	中国の県域都市部における介護保険制度構築：中国の吉林省公主嶺市と日本の和歌山県有田市の比較から	単 著	2025 年 2 月	『立命館国際研究』第 37 巻第 3 号		pp. 179-205	有 難
72	刘晓梅	价值回归：健康中国视域下门诊保证制度改革	共 著	2024 年 7 月	《哈尔滨工业大学学报(社会科学版)》	李歆	pp. 69-78	有
73	刘晓梅	最低工资水平对低收入群体和收入再	共 著	202 4 年	《科学决策》	何汉涛;于佳琪	pp. 158-169	有

		分配的影响机制研究		11月				
74	刘晓梅	城乡养老资源配置结构的差异分析与路径优化	共著	2024年11月	《农村经济》	于佳琪;刘艳茹	pp. 89-99	有
75	刘晓梅	基于政策评估的长期护理保险差异化研究	共著	2024年12月	《健康发展与政策研究》	刘冰冰;刘子琼;杜国明	pp. 457-464	有
76	刘晓梅	新业态从业人员基本养老保险参保的控制因素研究—来自 CLDS 数据库的经验证据	共著	2025年1月	《会计与控制评论》	王艺臻	pp. 153-180	有
77	劉曉梅	中国の外來診療保障の改革について	共著	2025年3月	『立命館国際研究』第37巻第4号	栞曉燕、李歆	pp. 35-58	無
78	徐林卉	中国の「多層的医療保障」制度の確立と展開	単著	2025年3月	『立命館国際研究』第37巻第4号		pp. 59-78	無
79	楊鵬超	一帯一路構想下における中国対外援助の変遷と実態	単著	2025年3月	『立命館国際研究』第37巻第4号		pp. 79-98	無
80	南玉瓊	北京市における中国朝鮮族高齢者のセルフケア—老人協会を中止に—	単著	2025年3月	『立命館国際研究』第37巻第4号		pp. 99-114	無
81	近藤信一	中国の半導体および半導体製造装置産業の現状と課題を踏まえた米中半導体摩擦の行方	単著	2025年3月	『立命館国際研究』第37巻第4号		pp. 115-136	無
82	守政毅	華人企業家コミュニティにおけるネットワーク組織を通じたコミュニティ・キャピタルの形成について—シンガポール中華商工会の事例をもとに—	単著	2025年3月	『立命館国際研究』第37巻第4号		pp. 17-34	無
83	Tsung-Che Wei (魏聰哲)	The Strategy for the Demand-Integrated Research and	共著	2025年1月	Asian Journal of Innovation	Alfred Li-Ping Cheng, Chih-Ming Hung	pp. 206-230	有

		Development Network of Care Robots in Taiwan			and Policy, 13(2)			
84	魏聰哲	日本推動精實智慧 製造新動向與臺日 合作展望	單 著	2024 年 7 月	經濟前瞻、第 214 期		pp. 131-136	無
85	魏聰哲	日本太空產業發展 動向與臺日合作展 望	單 著	2024 年 9 月	經濟前瞻、第 215 期		pp. 133-140	無
86	魏聰哲	美日半導體協定對 日本半導體產業競 爭力之影響與啟示	單 著	2025 年 1 月	經濟前瞻、 217 期		pp. 129-136	無
87	潘燕萍	“差序格局”視域 下提高企業家精神 的組態路徑研究： 基于 NCA 与 fsQCA 的混合分 析	共 著	2024 年 8 月	中国人力資源 開發, vol.41, No.8	巫潔雯、黃 文萍	pp. 67-84	有
88	Bo Li(李博)	華人ネットワーク における紐帯の再 考察-中程度の紐帯 の形成とソーシャ ル・キャピタルの 理論的探究-	單 著	2025 年 2 月	修士学位請求 論文		pp. 24	有

3. 研究発表等					
No.	氏名	発表題名	発表年月	発表会議名、開催場所	その他発表者名
1	小田美佐子	単身世帯の高齢者支援を考 える	2024 年 11 月	国際セミナー 「AI 時代における高齢者多角的支援の 模索」 静岡大学	
2	小田美佐子	死者の人格的利益の保護	2025 年 2 月	国際シンポジウム 「財産権と人格権の交錯する領域におけ る現代的課題の解明と理論構築」 朱雀キャンパス	
3	朱嘩	パーソナルデータ収集の法的 枠組み	2024 年 11 月	国際シンポジウム 「AI 時代における健康促進法の模索」 京都弁護士会館	
4	角本和理	仮想空間と所有権の構造	2024 年 5 月	2024 年度 日本法社会学会 学術大会 企画関連ミニシンポジウム「所有権研究 の最前線」 北海道大学	飯田高／吾妻聡／片野洋平
5	角本和理	マルクス・ガブリエルの倫理 資本主義について考える： Before/After データ資本主 義	2025 年 3 月	産学差分プライバシー研究会 関西学 院大学東京丸の内キャンパス	
6	熊岡知里	嫡出推定・否認制度の意 義・役割とその考慮要素に 関する考察	2024 年 11 月	2024 年度第 1 回民事法研究会 衣笠キャンパス	
7	熊岡知里	アバターの主体に対する人 格権侵害—バーチャル Youtuber の事例を中心に	2025 年 2 月	立命館大学・国立台湾大学院生研究報 告会 朱雀キャンパス	
8	ZHANG XIANGTIAN	中国法におけるデータの域 外移転規制	2024 年 12 月	2024 年度第 1 回公法研究会 衣笠キャンパス	

9	ZHANG XIANGTIAN	個人情報権と伝統的人格権の実質的区別について	2025 年 2 月	立命館大学・国立台湾大学院生研究報告会 朱雀キャンパス	
10	SHAN YU	CFC 税制におけるオーバー・インクルージョン問題	2024 年 12 月	2024 年度第1回税法研究会 衣笠キャンパス	
11	君島東彦	マルチトラック平和と外交について考える	2024 年 6 月	日本平和学会春季研究大会「憲法と平和」分科会、学習院大学	
12	Akihiko Kimijima	Japan's Constitutional Peace Principles: Origins, Present, and Future	August, 2024	Conference of Lawyers of Asia and the Pacific 2024 in Tokyo, University of the Sacred Heart, Tokyo	
13	本山央子	「日本の国家安全保障再定義と普遍的価値・ジェンダーの領有」	2024 年 6 月	日本平和学会 2024 春季研究大会	
14	本山央子	「帝国主義とフェミニズムの新しい関係？ 価値の外交とジェンダー主流化」	2024 年 11 月	日本国際政治学会 2024 研究大会	
15	本山央子	"Imperialism and feminism in the new security policy of Japan,"	2025 年 3 月	International Studies Association (ISA) 2025 Annual Convention	
16	本山央子	"Gender" in the National Security Strategy of Japan	2024 年 12 月	IGS ワークショップ「アジア太平洋をめぐる地政学的抗争とジェンダー：フェミニスト国際政治経済分析に向けて」	
17	野島大輔	『「国際平和を探究するカリキュラム」～これからの国際理解教育・平和教育のために～』	2024 年5月 23 日	第 13 回 日本国際理解教育学会・ユネスコカフェ（オンライン）	
18	野島大輔	(1)「ウクライナでの武力紛争のトランセンド法を用いた分析の試み」 (2)「ウクライナでの紛争を語る種々の話法について」	2024 年6月 22-23 日	クエーカー・フレンズ大阪月会・2024 年度修養会(宝塚・黙想の家)	
19	NOJIMA, Daisuke	"Restructuring World Order Studies (WOS) - Into Present world in Crisis-"	July.27, 2024	2024 International Institute on Peace Education (IIPE, held at Nepal)	
20	野島大輔	『「高校地歴・公民科 国際平和を探究するカリキュラム―国連を超えて―」』	2024 年10月 13 日	全国社会科教育学会第 73 回全国研究大会ブックトークカフェ(鹿児島大学)	
21	野島大輔	「国際的な危機の時代に対する現代平和教育の応接力の再生」	2024 年10月 27 日	日本平和学会 2024 年度秋季研究集会・平和教育分科会(オンライン)	
22	野島大輔	「国際平和を探究するカリキュラム―国連を超えて―」	2024 年10月 28 日	2024 年度第7回社会科授業研究会(オンライン)	
23	野島大輔	「教育学と国際関係学の接点領域の『空白』について―国際平和の探究のためのカリキュラム開発を通じて―」	2024 年 12 月1 日	日本社会科教育学会第 74 回全国研究大会(琉球大学)	
24	野島大輔	「国際平和を探究するカリキュラム～国連を超えて～」	2025 年1月 25 日	立命館大学国際地域研究所・2024 年度第1回平和主義研究会(衣笠キャンパス)	
25	野島大輔	(1)「今、どのような世界平和像が求められうるのか？―平和な 22 世紀を見られるはずの、子どもたちのために―」 (2)「ユネスコ 2023 勧告の概要と、今後の展開」	2025 年3月 29 日	国際教育フォーラム・プレセミナー「危機の時代の“国際教育”を考える―平和教育の視点から―」(大阪府立労働センター・エルおおさか)	
26	Go Murakami	Accepting them hurts our bargaining.txt	2024 年 6 月 14 日	Annual Meeting of Canadian Political Science Association	Nicholas Fraser
27	Polina Ivanova	Inclusion and Wellbeing in Higher Education: Addressing Loneliness among International	2025 年 3 月 11 日	Centre for Global Higher Education (CGHE) webinar	

		Students in the UK and Japan.			
28	Polina Ivanova	Navigating Loneliness and Building Connections: Experiences of International Students in Japanese and British Universities	2025 年 2 月 6 日	Intercultural Education/Education in the Migration Society. Research Exchange, FB 12 (Education), University of Bremen	
29	Polina Ivanova	Book chat “Refugees and asylum seekers in East Asia: Perspectives from Japan and Taiwan”	2025 年 2 月 5 日	UCLan RKE Institute for Area & Migration Studies (AMIS) Seminar Series 2025	
30	Polina Ivanova	Revisiting psychological capital and psychological safety: A study of Asian-born highly skilled migrants in Japan and Britain	2025 年 1 月 16 日	Recalibrating ‘Skill’ in Changing Immigration Regimes: Skilled Migrants and the Nature of Work in Asia, January 16-17, 2025, National University of Singapore	
31	Polina Ivanova	Lonely Islands? Comparative Studies of International Student Loneliness in Britain and Japan	2024 年 8 月 30 日	Kyoto Asian Studies Group, Kyoto University	
32	Yusy Widarahesty	The Self as an Active Agent: ‘Social Media and Indonesian Young Labor Migration Phenomenon to Japan	2024 年 11 月 30 日	Asia Pacific International Conference, Ritsumeikan University	
33	Yusy Widarahesty	Harsh Discipline and Reproductive Rights for the Technical Interns Training Program: A Case Study of Indonesian Trainees Bound for Japan	2024 年 4 月 11 日	The Kyoto Asian Studies Group, Kyoto University	
34	Nicholas A. R. Fraser	Do Religious Oaths Induce Bias within Judicial Proceedings?	2024 年 5 月	Courts & Politics Workshop, University of Guelph	
35	足立研幾	山本吉宣著『言説の国際政治学』—国際政治理論の観点から	2024 年 11 月 17 日	国際政治経済分科会Ⅱ	
36	Kenki Adachi	Logic Behind the Choice of International Systems: 2000 years History of Japan and International Systems	2024 年 4 月 4 日	International Studies Association 65th Annual Convention	
37	板木雅彦	GAFAM を解き明かす	2014 年 9 月	経済理論学会 全国大会(立教大学)	
38	板木雅彦	The dual equation in the short-cum-long term	2014 年 9 月	経済理論学会 全国大会(立教大学)	
39	板木雅彦	グローバリゼーション —— 分析概念としての再検討	2014 年 10 月	日本国際経済学会 全国大会(神戸大学)	
40	板木雅彦	Paradoxical dilemma of economic growth	2014 年 10 月	日本国際経済学会 全国大会(神戸大学)	
41	松村博行	アメリカの半導体政策と経済安全保障	2024 年 10 月	日本国際経済学会第 83 回全国大会	
42	渡邊英俊	食料問題と経済安全保障についての研究レビュー	2024 年 8 月	日米中政治経済研究会	
43	渡邊英俊	食料安全保障をめぐる国際社会の動向と日米の政策展開について	2025 年 1 月	島根大学法文学部経済研究会	
44	森原康仁	「エコノミック・ステイクラフト」とは何か——「分断」時代の世界経済	2024 年 10 月	唯物論研究協会第47回研究大会シンポジウム「ポスト・グローバリズム」時代の	

				暴力と抵抗——帝国主義の復活？」東洋大学白山キャンパス 6 号館	
45	中本 悟	Two Patterns of International Division of Labor of the US Multinational Corporations	Feb15,2025	Kyoto International Conference, Kyoto Institute of Economic Research	
46	Kenki Adachi	"Logic Behind the Choice of International Systems: 2000 years History of Japan and International Systems,"	April, 2024	International Studies Association 65th Annual Convention, San Francisco	
47	Daichi Morishige	"Japan's Post-Cold War Grand Strategic Adjustment: A New Neoclassical Realist Perspective"	April, 2024	International Studies Association 65th Annual Convention, San Francisco	
48	Yusy Widrahesty	"Harsh Discipline and Reproductive Rights for the Technical Interns Training Program: A Case Study of Indonesian Trainees Bound for Japan," 2024.04.11	April, 2024	The Kyoto Asian Studies Group, Kyoto University	
49	鳥山純子	「イスラーム・ジェンダー学科研と考えるコロニアリティ―インターセクショナリティ偏重批判と第三世界フェミニズムの再考から」	2024 年 4 月	東京外国語大学 AA 研共同利用・共同研究課題『現代世界の分断と共生の検討: イスラーム・ジェンダー学のアプローチから』、東京外国語大学本郷サテライトキャンパス	
50	Kota Suechika	"Sectarianism and Electoral Corruptions in Lebanon: Evidence from the 2024 Public Opinion Survey,"	May, 2024	The 26th Mediterranean Studies Association Annual International Congress, University of Valencia, Valencia, SPAIN	
51	Go Murakami	"Accepting them hurts our bargaining power."	June, 2024	Annual Meeting of Canadian Political Science Association, Montréal, Canada.	Nicholas A. R. Fraser.
52	本名純	インドネシアにおける民主主義の後退と政軍関係	2024 年 6 月	日本比較政治学会第 27 回大会	
53	Jun Honna	Indonesia: The Rule of Law and Democratic Backsliding	June, 2024	Rule of Law in Southeast Asia: What it means and how it works in Indonesia, Thailand, and Myanmar, JICA Ogata Sadako Research Institute for Peace and Development	
54	Kota Suechika	"(Anti-)Sectarianism and Political Institutions in Lebanon: A Quantitative Text Analysis of Hezbollah's Al-Manar (2017-23)"	July, 2024	BRISMES Annual Conference 2024, Lancaster University, UK	
55	Fukiko Ikehata	The Organization of Islamic Cooperation as a Platform for Member States to Showcase and Negotiate "Official Islam": Analyzing Consensus and Rivalry"	July, 2024	BRISMES Annual Conference 2024, Lancaster University, UK	
56	Masahiko Matsuda	"The paradoxical development of rural Southeast Asia (Keynote speech)".	August, 2024	The 5th International Conference on Agribusiness and Rural Development (IconARD 2024)., Universitas Muhammadiyah Yogyakarta (UMY), Indonesia.	
57	Daichi Morishige	"Joint Military Exercises and Regional Security: Lessons from Cold War	August, 2024	Re-Examining Japan's Cold War held at the University of East Anglia on	Soul Park

		East Asia”			
58	Daichi Morishige	“Legitimacy and Japan’s Military Cooperation with the United States in the 1980s”	August, 2024	Re-Examining Japan’s Cold War held at the University of East Anglia	
59	Kenki Adachi	Sino-Japan relations from the Japanese perspective	August, 2024	Sino-Japan relations in the Indo-Pacific: Implications for the regional orders, 2024 ANU China in the World Forum	
60	Polina Ivanova	“Lonely Islands? Comparative Studies of International Student Loneliness in Britain and Japan”,	August, 2024	Kyoto Asian Studies Group, Kyoto University.	
61	末近浩太	「レバノンへの波及：ヒズブッラーの対応」	2024 年 8 月	緊急オンラインセミナー「ガザ戦争の新局面：ハニーヤ暗殺を受けて」オンライン開催（千葉大学グローバル関係融合研究センター）	
62	末近浩太	「ヒズブッラーと国軍：ガザ危機拡大によるレバノン内政への影響」	2024 年 10 月	特別セミナー「レバノン危機の深層を探る」, 立命館大学中東・イスラーム研究センター オンライン開催	
63	Noboru Miyawaki	“Future Energy connectivity in NEA,” Northbound and Southbound Round Table on Economic Change and New Challenges of NEA	2024 年 9 月	IT Park, Ulaanbaatar, Mongolia	
64	本名純	ブラボウォ政権への移行期政治	2024 年 9 月	日本インドネシア協会月例講演会	
65	本名純	ブラボウォ新政権の政治・外交を展望する	2024 年 9 月	アジア経済研究所夏期公開オンライン講座「インドネシア 2024 年大統領選挙とブラボウォ新政権の行方」	
66	Kazushige Kobayashi	‘Russia, the West, and the Global South: Exploring the Challenges of the Triangular Relationship.’	2024 年 9 月	Presented at Georgetown University Center for Eurasian, Russian and East European Studies (Washington DC, USA)	
67	末近浩太	「レバノン：「ヒズブッラーの戦争」とその内政への影響」	2024 年 10 月	現代中東研究コロキウム特別シンポジウム「第 X 次中東戦争はなぜ続くのか? : イスラエルとハマースの戦闘開始から 1 年」, 立命館大学・東京外国語大学（ハイブリッド開催）	
68	本名純	インドネシア・ブラボウォ政権の政治と外交の展望	2024 年 11 月	アジア研究会、日本経済研究センター	
69	Merve OZTURK ASIL	"Problematizing State-centrism in Human Security: A Critical Analysis of Japan’s Human Security Discourse at Tokyo International Conference on African Development (TICAD) Documents".	November, 2024.	JAHSS & JASID Joint International Conference 2024, Hosei University Ichigaya Campus,	
70	足立研幾	「山本吉宣『言説の国際政治学——理論、歴史と「心の地政学」』をめぐって——国際政治里理論の観点から」	2024 年 11 月	国際政治経済分科会 II、於札幌国際会議場、	
71	Fukiko Ikehata	"Identity-Based International Politics: The Case of the Organization of Islamic Cooperation's Foreign Aid Diplomacy,"	November, 2024	Middle East Studies Association (MESA), The 58th Annual Meeting, online	
72	Jun Honna	How Jokowi Changed the Police	November, 2024	Joint Australian National University – Ritsumeikan University Research	

				Conference, “Jokowi’s Decade: How He Impacted Indonesia and the World,” Ritsumeikan University	
73	Jun Honna	The Political Role of the Military under Prabowo	November, 2024	Roundtable Discussion, “The Prabowo Presidency in Indonesia: Prospects for Democracy, the Political Economy and Geopolitics,” Keio University	
74	本名純	ブラボウオ新政権の政策と日インドネシアビジネスの展望	2024 年 11 月	日経フォーラム「アジアの未来」定例セミナー、日本経済新聞	
75	Kota Suechika	“Implicit Rules of Engagement between Hezbollah and Israel: The Gaza War’s Impact on Lebanon”	November, 2024	The International Symposium on Contemporary International Conflicts and Their Impacts on International Security, Institute of Diplomacy and International Affairs, Ministry of Foreign Affairs, Taipei, TAIWAN	
76	Kota Suechika	“Sectarianism and a Quasi-two-party System in Lebanon: Evidence from the Conjoint Experiment”	November, 2024	中華民國國際關係學會 2024 年國際關係年會, Association of International Relations (R.O.C.) Annual Meeting and Conference, Taichung (Taiwan)	
77	Kota Suechika	“Contested Identities between Sectarianism and Nationalism in Lebanon: Evidence from the 2024 Survey Experiment”	November, 2024	Middle East Studies Association (MESA), The 58th Annual Meeting, online	
78	Yusy Widrahesty,	“The Self as an Active Agent: ‘Social Media and Indonesian Young Labor Migration Phenomenon to Japan,”	November, 2024.	Asia Pacific International Conference, Ritsumeikan University,	
79	Yusaku Yoneda	“Exploring Salafist Views on the Palestine Question: Egypt’s al-Da’wa al-Salafiya and the ‘Gaza War’ after ‘October 7’”	December, 2024	The 15th Conference of the Asian Federation of Middle East Studies Associations (AFMA), Doshisha University, Kyoto	
80	Kota Suechika	“Connecting the Dots: New Initiatives for Middle Eastern ‘Area Studies 2.0’”	December, 2024	Keynote Speeches, The 15th AFMA Conference, Doshisha University, Kyoto, JAPAN	
81	Kota Suechika	“Electoral Fraud and Sectarian Oligarchy in Lebanon: Evidence from a Survey Experiment”	December, 2024	The 15th AFMA Conference, Doshisha University, Kyoto, JAPAN	
82	Junko Toriyama	“From a Gender Norm to the Heritage: A Case of Moroccan Mom’s Boy”	December, 2024	The 15th AFMA Conference, Doshisha University, Kyoto, JAPAN	
83	松田正彦	「東南アジアの脱農化論」	2024 年 12 月	東南アジア学会・第 106 回研究大会. 大阪大学	
84	Jun Honna	Democratic Backsliding and Civil-Military Relations in Indonesia	December, 2024	International Conference of Democracy and Political Development in the Indo-Pacific, National Chengchi University, Taiwan	
85	本名純	ブラボウオ政権の政治を考える	2025 年 2 月	東ジャカルタ工業団地講演会	
86	Yusy Widrahesty	The Challenges of Social Integration for Immigrants in Japan,	December, 2024	The Japan Foundation Jakarta ,	
87	Yusy Widrahesty	“Precarious Cycle of Indonesian Migrant Workers in Japan,”	January, 2025	Guest Lecture Series at the University of Central Lancashire (UCLan),	
88	Kazushige Kobayashi	‘Unpacking the Puzzle of Russia’s Expanding Influence in the Global South’.	2025 年 2 月	Presented at the seminar ‘Is Russia Winning the Global South and Losing Central Asia?’ at Harvard University’s Davis Center for Russian and Eurasian Studies	

				(Cambridge, MA, USA)	
89	Fukiko Ikehata	“Human Rights in Islamic Countries: Local Reforms and the Impact of International Connectivity”	2025 年 2 月	第 4 回イスラーム信頼学国際会議 Islamic Trust Studies International Symposium “Overcoming the Divide: Connectivity and Trust Building for Middle East Peace” (ポスター発表), 東京大学	
90	Yusaku Yoneda	“The Glocal Turn of Salafism, or Salafism Studies?: Reconsidering ‘Post-Salafism’ from the Case of Egypt’s al-Da’wa al-Salafiya”	February, 2025	The 2nd GSMEIAS Colloquium (JP/EN Bilingual International Workshop), Graduate Student Society for Middle Eastern and Islamic Area Studies (GSMEIAS), The Ritsumeikan Tokyo Campus	
91	Noboru Miyawaki	Pan-Asia Multilateral Talk on Cooperative Security of Mongolia-Korea-Japan Based on the 50-Year Experience of CSCE/OSCE,”	March, 2025	Ulaanbaatar, Mongolia	
92	Kazushige Kobayashi	Transforming Global Orders: Theorizing Agents of Socialization Beyond the West’.	2025 年 3 月	ISA 2025 Annual Convention (Chicago, USA)	
93	Kota Suechika	“(Anti-)Sectarianism and Political Institutions in Lebanon: A Quantitative Text Analysis of Hezbollah’s Al-Manar (2017-23)”	March, 2025	International Conference on Constructing New Paradigm for Security Studies in the Age of Hybrid Warfare in the Middle East and Eurasia, Doshisha University, Kyoto	
94	本名純	インドネシアの経済安全保障	2025 年 3 月	グローバルサウスと経済安全保障研究会、東京大学	
95	廣野美和	Chinese Investment and Human Development: Analytical Framework	2025 年 2 月	Joint Workshop : Chinese Investment and Human Development of Vulnerable Populations in Indonesia at Center for International Relations Studies (CIReS)-LPPSP, Universitas Indonesia	Masaki Mori, Ardhitya Eduard Yeremia, Maxensius Tri Sambodo, Mario Surya Ramadhan, Nikolay Murashkin, et al.
96	廣野美和	China and The World Orders Through The Lens of General Elections in Developing Countries	2025 年 2 月	Guest Lecture at FISIP Universitas Indonesia	
97	廣野美和	The China Factor in Developing Countries' Elections: Impacts on Electoral Outcomes and International Order	2024 年 12 月	A GLA Research Colloquium	
98	廣野美和	Public Roundtable: Sino-Japan relations in the Indo-Pacific: Implications for the regional orders	2024 年 8 月	2024 ANU CHINA IN THE WORLD FORUM, Australian National University	Kenki Adachi, Kei Koga, Denghua Zhang
99	廣野美和	ウクライナ戦争と中国ーグローバル・ガバナンスの観点からー	2024 年 5 月	第 17 回グローバルガバナンス学会研究大会	

100	廣野美和	Great powers vs domestic politics: The clean energy trade-off	2024 年 4 月	The Interpreter by Lowy Institute	Trissia Wijaya, Jun Arima, Patrick Ryan
101	中川涼司	「中国アニメ企業のビジネスモデルとビジネスエコシステム」		アジア経営学会 第 31 回全国大会 関西学院大学 西宮上ヶ原キャンパス	無
102	楊秋麗	中国石油化学産業における『X+1+X 構造』改革の要因分析ー産業チェーンレベル・企業集団レベル・商品レベルの要因分析ー	2024 年 5 月	異文化経営学会・第 18 回関西西部会	無
103	藤田美季	中国アニメ産業におけるネットアニメのビジネスモデルーテンセントのプラットフォームビジネスの分析を中心にー	2024 年 6 月	2024 年度中国経済経営学春季研究集会、日本大学経済学部（水道橋）	
104	近藤信一	中国における半導体及び製造装置産業の現状と課題	2024 年 10 月	日本国際経済学会第 83 回全国大会第 10 分科会企画セッション、神戸大学	松村博行（岡山理科大学）、肥塚浩（立命館大学）
105	韓 金江	機械産業の生産財分野から見る中国工業化の特徴	2024 年 6 月	日本現代中国学会 2024 年度関西西部会大会	
106	韓 金江	WTO 加盟後の中国企業の技術発展ー機械産業の動向を中心にー	2024 年 9 月	アジア経営学会第 31 回全国大会	
107	南玉瓊	中国朝鮮族の国内移動とコミュニティの形成	2024 年 5 月	2024 年度朝鮮族研究学会若手研究者博士論文発表会、上智大学	
108	南玉瓊	北京における中国朝鮮族高齢者の主体的な活動ー老人協会を中心に	2024 年 6 月	日本移民学会第 34 回年次大会 ラウンドテーブル、同志社大学	李定恩, 大野恵理, 新倉久乃
109	南玉瓊	중국조선족의 이동과 에스닉 커뮤니티의 형성: 중국과 일본의 사례 (中国朝鮮族の移動とエスニック・コミュニティの形成ー中国と日本の事例)	2024 年 12 月	와세다대학교 일미연구소 세미나 「동북아시아의 한인 디아스포라 현황과 전망」(早稲田大学日米研究所セミナー「東北アジアのコリアンディアスポラの現状と展望」)、早稲田大学	
110	南玉瓊	北京朝鮮族の高齢者福祉について	2025 年 2 月	朝鮮族研究学会 2025 年第一回研究会	
111	Tsung-Che Wei (魏聰哲)	The Strategy for the “Demand Integrated” Research and Development Network of Care Robots in Taiwan	2024 年 9 月	Asian Society for Innovation and Policy Conference (ASIP 2024) (September 8th ~ September 10th, 2024),	Alfred Li-Ping Cheng, Chih-Ming Hung

112	魏聰哲	台積電赴日投資對九州半導體產業地區創新系統之影響分析	2024 年 10 月	第十五屆日本研究年會暨「快速變動中的國際秩序：多元途徑的日本研究與亞太局勢」國際學術研討會	
-----	-----	----------------------------	-------------	---	--

4. 主催したシンポジウム・研究会等					
No.	発表会議名	開催場所	発表年月	来場者数	共催機関名
1	日台民事訴訟法セミナー 「民事訴訟の計画審理」	平井嘉一郎記念図書館カンファレンスルーム	2024 年 9 月	16 名	
2	国際シンポジウム 「AI 時代における健康促進法の模索」	京都弁護士会館	2024 年 11 月	16 名	京都弁護士会
3	日本平和学会 2024 年春季研究大会・非暴力分科会、テーマ「いかにして非暴力で核廃絶は可能か」、企画・司会・活動記録執筆	学習院大学（ハイブリッド）	2024 年 6 月	40 名	
4	日本平和学会 2024 年秋季研究集会・非暴力分科会、テーマ「コンフリクト・転換・責任」、企画・司会・活動記録執筆	オンライン	2024 年 10 月	9 名	
5	IGS ワークショップ「アジア太平洋をめぐる地政学的抗争とジェンダー：フェミニスト国際政治経済分析に向けて」	お茶の水女子大学	2024 年 12 月	38 名	お茶の水女子大学ジェンダー研究所
6	Workshop: Militarization in Asia Pacific: towards transnational feminist resistance	Asia Pacific Feminist Forum	2024 年 9 月	29 名	アジア女性資料センター
7	日本平和学会 2024 年度春季研究大会・平和教育分科会 「平和教育の新たなアプローチの探求」（企画・司会・記録を担当…記録文は、学会記録 第 26 巻第 2 号 2024 年 7 月刊に収録）	学習院大学およびオンライン	2024 年 6 月 2 日	対面・オンライン計 25 名	なし
8	「2023 年ユネスコ教育勧告推進事業：私たちがつくるユネスコ教育勧告—＜コンヴィヴィアル＞から開く 14 の扉」（推進委員）	聖心女子大学グローバルプラザおよびオンライン	2025 年 1 月 11 日	対面約 140 名、オンライン約 160 名	日本国際理解教育学会 聖心女子大学グローバル共生研究所
9	立命館大学国際平和ミュージアム・平和教育研究センター 2024 年度研究プロジェクト 「平和教育の複合的な学習プログラム作成・実施の試み：平和共創ワークショップ〜いま世代を超えて、ともに提案を創り上げよう！〜」（代表）	立命館大学国際平和ミュージアム	2025 年 1 月 13 日	18 名	協力：平和教育学研究会（浅川和也、西尾理、村上登司文）、Melody Makers and Alternatives 有志後援：日本平和学会・平和教育分科会、関係性の教育学会、平和教育地球キャンペーン
10	2024 年度第 2 回平和主義研究会「平和権に関する勧告の最新の議論状況について：MOMO 平和大学『平和権』参加後記」（司会担当）	立命館大学衣笠キャンパス	2025 年 3 月 8 日	対面・オンライン計 12 名	科研「ドイツ・韓国における兵役拒否者/運動の比較研究—立憲主義的観点から—」
11	Graduate Seminar, Cinema(s) of Protest, Resistance and Decolonisation in a Global Perspective with Janna Houwen	立命館大学衣笠キャンパス 恒心館 208 号教室	2024 年 4 月		主催：科研（若手）2011 年革命後エジプト都市部における『ろくでなし』社会研究、共催：科研（B）：中東北アフリカ地域における遺産形成の批判的研究—移動の視点から/ CMEIS（立命館大学中東イスラーム研究センター）
12	Joanna Houwen 博士公開セミナー 「移動という選択：MENA 地域におけるエッセイ・フィルムから」（Migration Choices in Essay Films from the MENA region）	立命館大学東京キャンパス 教室 5	2024 年 4 月		主催：科研（若手）2011 年革命後エジプト都市部における『ろくでなし』社会研究、共催：科研（B）：中東北アフリカ地域における遺産形成の批判的研究—移動の視点から/ CMEIS（立命館大学中東イスラーム研究センター）、科研研究会 5 回
13	Digital Transformation, Sustainability and Construction 5.0	恒心館 306	2024 年 5 月	30 名	アジア日本研究推進プログラム、国際関係研究科
14	Research Methods in Migration Study	恒心館 306	2024 年 5 月	40 名	アジア日本研究推進プログラム、国際関係研究科
15	Chinese Popular Nationalism's Shadow on International Crises: Evidence from a Simulative Survey Experiment	恒心館 306	2024 年 5 月	30 名	アジア日本研究推進プログラム、国際関係研究科

16	Governing Outer Space: Challenges and Opportunities	恒心館 303	2024 年 5 月	15 名	国際関係研究科
17	Frontiers of Research on Norm Contestation in International Relations	恒心館 306	2024 年 5 月	45 名	アジア日本研究推進プログラム、国際関係研究科
18	The Unintended Consequences of China's Belt and Road Projects in Kazakhstan's Agro-industrial Upgrading	恒心館 306	2024 年 6 月	30 名	重点プログラム「中国強国化」、国際関係研究科
19	How do politics mean? Interpretivist methodology in political science and international relations	恒心館 306	2024 年 6 月	30 名	アジア日本研究推進プログラム、国際関係研究科
20	Exploring Filipino Audiences' Television Memories and Interpretations of Yu Yu Hakusho (月例若手研究会 1)	敬学館 108	2024 年 6 月	10 名	アジア日本研究推進プログラム、国際関係研究科
21	Pathways to Citizen Diplomacy: Insights from G7 and G20 Government Advisory on Gender Equality	恒心館 306	2024 年 6 月	30 名	国際関係研究科
22	Theoretical Framework for War and Peace: The Phenomenon of Conflict	恒心館 306	2024 年 7 月	30 名	中東イスラーム研究センター、国際関係研究科
23	Liberal Erosion of Liberal Norms: Contesting Information Freedom in a Digital Age (月例若手研究回 2)	存心館 404	2024 年 7 月	10 名	アジア日本研究推進プログラム、国際関係研究科
24	Sino-Japan relations in the Indo-Pacific: Implications for the regional orders	ANU	2024 年 8 月	60 名	ANU China in the World
25	Nationalism and War: The long-term perspective	平井嘉一郎記念図書館カンファレンスルーム	2024 年 10 月	50 名	中東イスラーム研究センター、国際関係研究科
26	Analyzing Asymmetric Conflicts: Method, Approaches, and Challenges	恒心館 306	2024 年 10 月	30 名	中東イスラーム研究センター、国際関係研究科
27	Indonesia Post-2024 Elections: Political-Security Prospects and Challenges	恒心館 306	2024 年 11 月	30 名	アジア日本研究推進プログラム、国際関係研究科
28	NIDS workshop	恒心館 306	2024 年 11 月	30 名	国際関係研究科
29	Jokowi's Decade: How He Impacted Indonesia and the World	平井嘉一郎記念図書館カンファレンスルーム	2024 年 11 月	60 名	Australia National University, Coral Bell School
30	A Future Forward: Shaping G20 Futures Through Diplomacy	恒心館 306	2024 年 12 月	30 名	国際関係研究科
31	立命館大学・東北財経大学国際シンポジウム	衣笠キャンパス	2024 年 7 月	20 名	東北財経大学
32	国際地域研究所重点プロジェクト「中国強国化と国際秩序」 国際シンポジウム EU、日本、中国における インターネットと AII ガバナンス	衣笠キャンパス	2024 年 10 月	30 名	東北財経大学

5. その他研究活動（報道発表や講演会等）				
No.	氏名	研究業績名	発表場所等	研究期間
1	小田美佐子	単身世帯の増加から考える財産管理・承継	RADIANT23 号	2024 年 8 月
2	小田美佐子	日本での学術交流	ネットニュース「華人頭条」	2025 年 1 月
3	藤田明史	講演「ガルトゥング平和学の現代的意義について」	立命館土曜講座	2024 年 8 月
4	本山央子	レポート「E. 女性と武力紛争」	『JAWW NGO レポート ―北京+30 に向けて』日本女性監視機構(JAWW)	2024 年 9 月
5	本山央子	レポート“E. Women and Armed Conflicts”	JAWW NGO Report for Beijing + 30	2024 年 9 月
6	本山央子	「核・安全保障・ジェンダー」	「被爆 80 年核兵器をなくす国際市民フォーラム」パネル「核兵器とジェンダー～核被害から政策まで～」	2025 年 2 月
7	本山央子	講演「フェミニズムの視点から考える『戦後平和』と『新しい戦争』」	名古屋 YWCA	2025 年 2 月

8	山本央子	「多様性と安全〜フェミニスト政治経済学の視点から」	東京大学教養学部附属教養教育高度化機構 D&I 部門シンポジウム「多様性と安全 (Diversity and Safety)」	2025 年 2 月
9	野島大輔	「図書紹介『高校地歴・公民科 国際平和を探究するカリキュラム〜国連を超えて』」	『平和・国際教育研究会通信』No.86 pp.8-9	2024 年 6 月
10	野島大輔	「(図書紹介) 野島 大輔[著]『高校地歴・公民科 国際平和を探究するカリキュラム〜国連を超えて』」	『国際バカロレア教育研究』第 8 巻 pp.187-188	2024 年度
11	村上剛	日本における移民・難民受け入れの政治と人々の賛否態度	AJ グローバル・シンポジウム 2025	2025 年 1 月 25 日
12	足立研幾	Sino-Japan relations in the Indo-Pacific: Implications for the regional orders (panel discussion)	2024 ANU China in the World Forum	2024 年 8 月 30 日
13	板木雅彦	書評『21 世紀のアメリカ資本主義』	アメリカ経済誌研究 第 23 号 2024 年 3 月	
14	白戸圭一	Reuters Plus 提供の Video podcasts "Japanese Vision"への出演(英語)	https://plus.reuters.com/jco-japan-in-the-new-decade/p/1	2025 年 1 月 20 日配信開始
15	末近浩太	「シリアの読書案内」	『アジア・マップ』アジア・日本研究 Web マガジン, Vol. 2	2024 年 4 月 1 日公開
16	池端落子	「サウディアラビアと私」	『アジア・マップ』アジア・日本研究 Web マガジン, Vol. 2	2024 年 4 月 1 日公開
17	末近浩太	「台湾とイスラム教（現代のことば）」	『京都新聞』夕刊, 1 面	2024 年 4 月 15 日
18	本名純	「ブラボウォ政権への布石」	『じゃかるた新聞』2024 年 4 月 16 日、1 面	
19	本名純	「2024 年インドネシア大統領選挙の結果と民主主義の行方」	笹川平和財団勉強会、2024 年 4 月 16 日	
20	本名純	「ブラボウォ政権と民主主義」	『月刊インドネシア』2024 年 4 月号、p.12。	
21	本名純	「ブラボウォの国軍」	『じゃかるた新聞』2024 年 5 月 13 日、1 面	
22	本名純	「ブラボウォの軍人ネットワーク」	『月刊インドネシア』2024 年 5 月号、p.5。	
23	末近浩太	「常識的な感覚（現代のことば）」	『京都新聞』夕刊, 1 面	2024 年 6 月 7 日
24	本名純	「ジャカルタ特別州知事選」	『じゃかるた新聞』2024 年 6 月 10 日、一面。	
25	Jun Honna	“Indonesia: the Rule of Law and Democratic Backsliding,”	Seminar: Rule of Law in Southeast Asia: What it means and how it works in Indonesia, Thailand, and Myanmar, JICA Ogata Sadako Research Institute for Peace and Development, June 21, 2024.	
26	Jun Honna	Discussant for the Seminar by Norman Joshua	Militarization Overlooked: Rethinking the Origin of Indonesia's New Order, 1950-1965, CSEAS, June 28, 2024.	
27	本名純	「2024 年全国統一地方首長選挙の注目点」	『月刊インドネシア』2024 年 6 月号、p.4。	
28	本名純	2024 年インドネシア大統領選挙: ブラボウォは本当に勝利したか」	「国際地域研究所・国際情勢解説、2024 年 No.1、2024 年 6 月	
29	白戸圭一	北陸朝日放送による報道番組『新型コロナウイルス拡大初期から学ぶ「情報リテラシー」』のロケのため、石川県加賀市立勅使小学校、分校小学校、錦城小学校、山代小学校の 4 校でゲスト講師として登壇。		2024 年 6 月 27 日 ~7 月 4 日
30	本名純	「ジェマ・イスラミアの解散」	『じゃかるた新聞』2024 年 7 月 8 日、一面。	
31	本名純	「国家警察法の改正案をめぐる懸念」	『月刊インドネシア』2024 年 7 月号、p.4。	
32	Sachiko Ishikawa	Moderator, Symposium for Commemorating the 10th Anniversary of the Signing of the Comprehensive Agreement on Bangsamoro The past 10 years	JICA Research Institute, August 7th	

		and forward the Future,		
33	本名純	「アニス外しの政治」	『じゃかるた新聞』2024年8月12日、一面	
34	本名純	「国軍法の改正案をめぐる懸念」	『月刊インドネシア』2024年8月号、p.16。	
35	Kazushige Kobayashi	Invited speaker at the Bavi Dialogue expert talk session ‘Preventing and Mediating Armed Conflicts: The Role of International Organizations, Regional Mechanisms and Middle Powers’.	Bavi Dialogue (Hanoi, Vietnam)	2024年8月
36	末近浩太	「選挙イヤーの2024年（現代のことば）」	『京都新聞』夕刊, 1面	2024年8月21日
37	Kazushige Kobayashi	Invited speaker in the internal seminar ‘Exploring the Future(s) of Russia After Ukraine’s Kursk Invasion’.	The Embassy of Japan in the United States (Washington DC, USA)	2024年9月
38	Yusy Widrahesty	Multiculturalism of Japanese Society: in Between Challenges and Opportunities	Japan scope #33, The Japan Foundation Jakarta,	
39	白戸圭一	中国アフリカ関係についての解説	2024年9月4日 テレビ朝日『報道ステーション』出演	
40	白戸圭一	France-Japan Dialogue on African development: Toward the TICAD 9 にパネリスト	Institut Français des Relations Internationales (IFRI) 主催のオンラインウェビナー, 2024年9月9日	
41	本名純	「プラボウォ政権への移行期政治」	日本インドネシア協会月例講演会、三井住友銀行呉服橋クラブ、2024年9月20日。	
42	本名純	「プラボウォ新政権の政治・外交を展望する」	アジア経済研究所夏期公開オンライン講座「インドネシア 2024 年大統領選挙とプラボウォ新政権の行方」、2024年9月26日	
43	嶋田晴行	「アフガニスタンの都市—バーミヤン」	『アジア・マップ』アジア・日本研究 Web マガジン, Vol.2	2024年10月1日
44	末近浩太	「レバノン侵攻「限定的」主張 イスラエル、ヒズボラを追撃」	『朝日新聞』総合3面	2024年10月2日
45	末近浩太	「イスラエル 地上侵攻の狙い 報復どこまで」	テレビ朝日「モーニングショー」（パネル出演）	2024年10月2日
46	末近浩太	「イスラエルとヒズボラの戦闘激化」	TBS ラジオ「荻上チキ・Session-22」	2024年10月3日
47	鳥山純子	「生き方を選ぶ自由—ジェンダーから見る平和ミュージアム」	立命館大学末川博記念館、第2会議室	2024年10月12日
48	本名純	コメント「民主主義の希望→脅威へインドネシアのジョコ大統領の光と影」	『朝日新聞デジタル』、2024年10月18日。	
49	本名純	コメント「インドネシア新大統領就任10年ぶり交代 外交・防衛に力」	『日本経済新聞』、2024年10月20日。	
50	Jun Honna	comment to “Indonesian President Prabowo Subianto calls on nation to be courageous”	Nikkei Asia, October 20, 2024.	
51	本名純	コメント「州のはじめに考える逆戻りを逆戻りさせよ」	『中日新聞』、2024年10月20日	
52	Jun Honna	comment to “Indonesia’s Indrawati faces tough challenges under President Prabowo,”	Nikkei Asia, October 21, 2024.	
53	末近浩太	「ヒズボラの現実（現代のことば）」	『京都新聞』夕刊, 1面	2024年11月5日
54	本名純	「インドネシア・プラボウォ政権の政治と外交の展望」	日本経済研究センター、2024年11月8日	
55	Jun Honna	“How Jokowi Changed the Police,”	Joint Australian National University – Ritsumeikan University Research Conference, “Jokowi’s Decade: How He Impacted Indonesia and the World,” Ritsumeikan University, 23 November 2024.	
56	Jun Honna	“The Political Role of the Military under Prabowo,	Roundtable Discussion, “The Prabowo Presidency in Indonesia: Prospects for	

			Democracy, the Political Economy and Geopolitics,” Keio University, 25 November 2024.	
57	末近浩太	「パレスチナ問題と中東情勢：紛争のメカニズムを考える」	大阪船舶倶楽部 2024 年 11 月例会（大阪大学中之島センター）	2024 年 11 月 12 日
58	末近浩太	「イスラエルとレバノンの停戦」	J-WAVE 「JAM THE PLANET (News to Table)」	2024 年 11 月 27 日
59	末近浩太	「ヒズボラ指導者の演説から停戦条件消えた」	朝日新聞デジタル	2024 年 11 月 28 日
60	末近浩太	「実効性に不安も、散発的に攻撃起きる可能性」	『朝日新聞』国際面	2024 年 11 月 28 日
61	本名純	「ブラボウォ新政権の政策と日インドネシアビジネスの展望」	日経フォーラム第 29 回「アジアの未来」定例セミナー、2024 年 11 月 29 日。	
62	末近浩太	「動き出したシリア内戦、各地の国際紛争が影響か 識者に聞く」	朝日新聞デジタル	2024 年 12 月 1 日
63	末近浩太	「シリア反体制派、北西部の要衝へ進攻か 政権軍、反攻でアレッポ空爆」	『朝日新聞』総合 3 面	2024 年 12 月 2 日
64	末近浩太	「世界情勢で崩れたバランス“停戦”でシリア内戦が再燃へ」	テレビ朝日「報道ステーション」（パネル出演）	2024 年 12 月 3 日
65	末近浩太	「権力移譲、もめる可能性も（アサド政権崩壊について）」	時事通信 『西日本新聞』 2024 年 12 月 10 日付朝刊に配信・掲載）	2024 年 12 月 9 日
66	末近浩太	「攻撃開始から 10 日余りで“首都制圧”背景は？シリア・アサド政権崩壊」	テレビ朝日「報道ステーション」（パネル出演）	2024 年 12 月 9 日
67	末近浩太	「シリア独裁政権が突然崩壊 市民を弾圧…絶滅刑務所も」	TBS テレビ「サンデーモーニング」（パネル出演）	2024 年 12 月 15 日
68	末近浩太	「シリア 暫定政権主導の指導者“包括的な国づくり目指す”強調」	NHK 総合「NHK ニュース 7」	2024 年 12 月 15 日
69	足立研幾	「国際平和を考える—国際政治学の視点から」	立命館大学創思館ホール、2024 年 12 月 19 日.	
70	白戸圭一	情報リテラシーに関する解説	テレビ朝日インターネット放送局 ABEMA 生放送報道番組「ABEMA Prime」、2024 年 12 月 20 日	
71	末近浩太	「強権化の懸念(シリア・識者談話)」	時事通信	2025 年 1 月 7 日
72	末近浩太	「トルコのシリア難民の期待と不安(現代のことば)」	『京都新聞』夕刊, 1 面	2025 年 1 月 16 日
73	本名純	コメント「対中国インドネシアの戦略」、	『朝日新聞』、2025 年 1 月 12 日 3 面	
74	白戸圭一	"Japanese Vision"への出演（英語）、日本の対アフリカ外交について	Reuters Plus 提供の Video podcasts、2025 年 1 月 20 日配信開始	
75	白戸圭一	フジテレビ記者会見問題についての解説	プレジデント・オンライン記者によるインタビューへの対応、2025 年 2 月 3 日配信開始	
76	Jun Honna	Interview, “Myanmar Becomes Hotbed of Online Crime,”	NHK World Japan, February 12, 2025.	
77	末近浩太	「中東・西アジアと世界の戦乱がやむ日：平和をめざす 3 つの視点」	AJI グローバルシンポジウム 2025（オンライン開催）	2025 年 1 月 25 日
78	辻本登志子	「韓国の移住労働者受入れに見る『外国人』と『国民』の権利の拮抗」	『AIJ グローバル・シンポジウム 2025：立命館 発これからの平和創出と私たちの羅針盤：アジア・日本研究からの発信』立命館大学茨木キャンパス、2025 年 1 月 25 日。	
79	村上剛	「日本における移民・難民受け入れの政治と人々の賛否態度」	『AIJ グローバル・シンポジウム 2025：立命館 発これからの平和創出と私たちの羅針盤：アジア・日本研究からの発信』、立命館大学茨木キャンパス、2025 年 1 月 25 日。	
80	本名純	「インドネシアにおける移民の政治利用」	『AIJ グローバル・シンポジウム 2025：立命館 発これからの平和創出と私たちの羅針盤：アジア・日本研究からの発信』、立命館大学茨木キャンパス、2025 年 1 月 25 日。	
81	末近浩太	「中東を脱神話化する：異文化理解と情勢分析のあいだで」	立命館西園寺塾 2024 年度梅原文明コース（立命館東京キャンパス）	2025 年 2 月 1 日

82	本名純、	「ブラボウォ政権の政治を考える」	東ジャカルタ工業団地(EJIP)講演会、2025 年 2 月 5 日。	
83	白戸圭一	“Japanese government policy toward Africa and Japanese companies invest in Africa,”	JICA(国際協力機構主催) 投資促進・ビジネス環境整備」事業における講演、2025 年 2 月 12 日	
84	鳥山純子	CMEIS「Book Launch」第25回『「アラブの春」のアクチュアリティ：エジプト一月二十五日革命を中心にみるグローバリゼーション下の日常的抵抗』	立命館大学中東・イスラーム研究センター オンライン開催	2025 年 2 月 27 日
85	末近浩太	「中東現代史の 100 年: ガザ危機やアサド政権崩壊などの大激変を読み解く」	朝日カルチャーセンター新宿教室（オンライン開催）	2025 年 3 月 5 日
86	本名純	「インドネシアの経済安全保障	グローバルサウスと経済安全保障研究会、東京大学先端科学技術研究センター、2025 年 3 月 25 日。	
87	末近浩太	「地域研究と万博（現代の言葉）」	『京都新聞』夕刊, 1 面	2025 年 3 月 27 日
88	鳥山純子	AFMA 国際学会報告「Session 6 Security and Conflicts in the Middle East 」	日本中東学会ニューズレター、No. 176、pp.25	2025 年 3 月 31 日
89	廣野美和	英国外交館研修『China Capability Course』/ Session 1: Impact of China's rise	立命館大学衣笠キャンパス 存心館 204	2025 年 3 月 19 日
90	廣野美和	論点『ウクライナ和平会議』	毎日新聞『論点』	2024 年 7 月 10 日発刊
91	中川涼司	「中国动漫企业的盈利模式和国际发展—腾讯绘梦和追光动漫为例」	中国・渤海大学	2024 年 8 月 28 日
92	中川涼司	中国の不動産開発問題 不動産規制と不況	『日中友好新聞』	2024 年 9 月 15 日
93	中川涼司	中国の高齢化と社会保障 社会保障制度の停滞と再構築	『日中友好新聞』	2025 年 1 月 1 日

6. 受賞学術賞					
No.	氏名	授与機関名	受賞名	タイトル	受賞年月
1	衣笠三郎	財団法人〇〇財団	〇〇優秀文化賞	〇〇に関する研究	2014 年 10 月

7. 科学研究費助成事業（科研費）						
No.	氏名	研究課題	研究種目	開始年月	終了年月	役割
1	本山央子	「日本による親ジェンダー外交の展開:安全保障、ガバナンス、植民地主義視点からの分析」	若手	2023 年 4 月	2028 年 3 月	代表
2	本山央子	フェミニズム理論による新たな国家論の構築—ケア概念と安全保障概念の再構想から	基盤(B)	2023 年 4 月	2027 年 3 月	分担
3	末近浩太	『歴史的シリアにおける国家変容の研究：混合的手法による新たな中東地域研究の開発』	基盤研究 A	2023 年 4 月	2027 年 3 月	代表
4	末近浩太	『危機下の東アラブ諸国における社会的レジリエンスの実証研究：ヨルダンの事例から』	国際共同研究加速基金(国際共同研究強化(B))	2022 年 10 月	2025 年 3 月	代表
5	末近浩太	『現代中東における「政治の宗教化」と「宗教の政治化」：ムスリム同胞団の比較事例研究』	基盤研究 B	2023 年 4 月	2026 年 3 月	分担
6	末近浩太	『ハイブリッド戦争時代における新たな安全保障学の構築』	基盤研究 A	2022 年 4 月	2025 年 3 月	分担
7	末近浩太	『政治体制としての代議制民主主義の現状と可能性：東地中海地域の事例から』	基盤研究 A	2022 年 4 月	2027 年 3 月	分担
8	鳥山純子	『中東北アフリカ地域における遺産形成の批判的研究—移動の視点から』	基盤研究 B	2024 年 4 月	2028 年 3 月	代表
9	池端路子	『中東の国家間対立と「公的イスラーム」	若手研究	2022 年 4 月	2025 年 3 月	代表

		の役割：国家の正統性と法学者ネットワーク』				
10	池端蒔子	『イスラーム諸国の信頼醸成と合意形成：人類互敬：同胞精神と現実政治の拮抗の中で』	学術変革領域研究 A	2023 年 4 月・	2025 年 3 月	代表
11	池端蒔子	『現代イスラーム世界における法学者ネットワークの動態：人権規範をめぐる分断と統合』	若手研究	2025 年 4 月	2028 年 3 月	代表
12	池端蒔子	『危機下の東アラブ諸国における社会的レジリエンスの実証研究：ヨルダンの事例から』	国際共同研究加速基金(国際共同研究強化(B))	2022 年 10 月	2025 年 3 月	分担
13	米田優作	『中東地域におけるイスラームの保守転回と政治介入：サラフィー主義ネットワークの研究』	特別研究員奨励費	2022 年 4 月	2025 年 3 月	代表
14	村上剛	「日本における移民排斥感情の理解と理論的検討」	基盤研究(C)	2023 年 4 月	2026 年 3 月	代表
15	宮脇昇	国際・国内公共政策決定過程における沈黙利用の分析	基盤研究(C)	2022 年 4 月	2026 年 3 月	代表
16	足立研幾	過剰／過少安全保障化の理論化に向けて—COVID-19を事例として	基盤研究(C)	2022 年 4 月	2027 年 3 月	代表
17	本名純	新型コロナ危機の政治的インパクト：東南アジア地域モデル構築による比較政治研究の刷新	基盤研究(A)	2022 年 4 月	2027 年 3 月	代表
18	足立研幾	欧州統合の「逆行」と EU-アジア太平洋関係：国際構造と地域統合の相関についての考察	基盤研究(A)	2023 年 4 月	2027 年 3 月	分担
19	松田正彦	「脱農化する東南アジアから導かれる地域発展の論理—気候変動時代の新しいパラダイム—」	基盤研究(B)	2024 年 4 月	2026 年 3 月	代表
20	辻本登志子	移住家事労働者の権利処遇をめぐるフィリピン・韓国の二国間連携に関する研究	基盤研究(C)	2024 年 4 月	2029 年 3 月	代表
21	玉井 良尚	ポスト・ウクライナ時代に向けた社会インフラの安全保障に関する研究	若手研究	2024 年 4 月	2027 年 3 月	代表
22	IVANOVA Polina	Professional incorporation and social inclusion of highly-skilled Asian migrants in Japan and the UK	若手研究	2024 年 4 月	2027 年 3 月	代表
23	French Thomas	The British, the Commonwealth, and the Occupied - Re-Examining the International and Domestic Aspects of the British Commonwealth Occupation Force of Japan (1945 to 1952)	基盤研究(B)	2025 年 4 月	2030 年 3 月	代表
24	廣野美和	一帯一路と世界秩序：沿線国の総選挙から見る対中観の変容	基盤研究(C)	2021 年 4 月	2025 年 3 月	代表
25	廣野美和	中国投資と東南アジア弱者層の人間の安全保障：グローバル中国研究論の推進	国際共同研究加速基金(海外連携研究)	2024 年 9 月	2028 年 3 月	代表
26	守政毅	企業家ネットワーク形成と社会関係資本の獲得を促すネットワーク組織に関する研究	基盤研究(C)	2021 年 4 月	2025 年 3 月	代表

8. 科研費を除くすべての外部資金（政府系、民間財団、民間企業との共同研究費等）						
No.	氏名	研究課題	資金制度・研究費名	採択年月	終了年月	役割
1	角本和理	アバターを安全かつ信頼して利用できる社会の実現	科学技術振興機構 戦略的な研究開発の推進 ムーンショット型研究開発事業	2022 年	2025 年	分担
2	朱嘩	民事信託における AI の活用に関する実証研究	トラスト未来フォーラム	2024 年	2026 年	代表
3	朱嘩	高齢者支援策の模索	末延財団	2024 年	2025 年	代表
4	野島大輔	「平和教育の複合的な学習プログラム作成・実施の試み」	2024 年度 国際平和ミュージアム平和教育研究センター 研究プロジェクト 教育研究活動	2024 年 4 月	2025 年 3 月	代表
5	白戸圭一	国際人口移動時代における寛容な社会創出を目指して	2024 年度 立命館大学アジア・日本研究推進プログラム	2023 年 4 月	2026 年 3 月	メンバー

6	足立研幾	調査研究委託	英国大使館		2025 年 1 月	2025 年 3 月	代表
7	潘燕萍	可持續創業減貧的外生・内生協同机/機制与 对策研究	中国・国家社会科学基金(一般項目)		2024 年 9 月	2026 年 12 月	代表

9. 知的財産権								
No.	氏名	名称	出願人 区分	発明人 区分	出願番号	公開番号	登録（特許）番号	国